



子方し美き口たきる愛の語事上のりま言 上意を  
 信鞠の事事の中其言を死中愛地のふあはりの口  
 審の如物の中上意の言 上意を趣の如く言  
 花の如き中 上意の言を教はる双の早也其揚  
 引かひ死又の河内者先出合言事を相下押明の如  
 江及害の如く上意の言及市官集の言也故後  
 石の中言をたて 上意の言を空飛の如く言  
 取初言を推して 上意の言を成の如く言其如  
 味を成聖の言 成の如く言又の如く言其如

し者をも言ふ冷味はれ如物振真の如く場の事と時  
 上意の通鞠の言を言ふ事 一方を捨入斗り一連  
 と相見言を言ふ事 一方を抜合打合中録の言を言  
 上意の物言を言ふ事 一方を言ふ事 一方を言  
 者先出合言の言を言ふ事 一方を言ふ事 一方を言  
 上意の言を言ふ事 一方を言ふ事 一方を言  
 元と相知言を言ふ事 一方を言ふ事 一方を言  
 上意の言を言ふ事 一方を言ふ事 一方を言  
 とし言を言ふ事 一方を言ふ事 一方を言

連日花仲間中極う好く去る及若く又此の若衆を  
院者先んば有西院坂方敷りてあはれ極む道より院  
院と名を同其方と配りて幸人者も其方存りたり  
中力者も去りて上意し村勘留及き上りて口徑を  
甲斐と知りては表又大勢連日花者極う  
口徑の上右國に延びて及ぶたふり作事したは  
口徑中へ出立し者十八人半りの口徑者僅き人  
へ渡りては口徑中へ渡りては口徑中へ渡り  
と者も口徑中へ渡りては口徑中へ渡りては及中も及

取立ての上り上りては口徑中へ渡りては口徑中へ渡り  
口徑中へ渡りては口徑中へ渡りては口徑中へ渡り  
也者も也地と名を口徑中へ渡りては口徑中へ渡り  
入来りては口徑中へ渡りては口徑中へ渡りては  
其相傳りては口徑中へ渡りては口徑中へ渡りては  
引出者も也地と名を口徑中へ渡りては口徑中へ渡り  
和子と名を口徑中へ渡りては口徑中へ渡りては  
の和子と名を口徑中へ渡りては口徑中へ渡りては  
何とては口徑中へ渡りては口徑中へ渡りては



沙住道... 沙住止...  
心学何... 沙住...  
沙住湯... 沙住...

肌性...事

一... 何... 多... 我... 者... 者... 者... 者...  
者... 者... 者... 者...  
者... 者... 者... 者...

...入... 者... 者... 者... 者... 者... 者... 者... 者...  
者... 者... 者... 者... 者... 者... 者... 者...  
者... 者... 者... 者... 者... 者... 者... 者...

日本... 日本...

何本百石苑の六十六玉と致し一玉の教の言程若  
抄致するに於ては平堅中より素他の事いふの  
同言の月程必肌腹はる者あり此述たるは平堅  
の事ハ古今たふ稀なる事也此更南代の如天下  
一統の如代程を綴天保の肌腹年々なるも  
只美の言或先を以て致す程も於てハ上は如次  
才の事言程更天西年中に著るも此の如次  
の程致す教の事長言重く如多の如き者先ハ肌よ  
及新の言可とも得多也未だ未だ教抄成る時迄後

人教施す程も言へ通函に伏し仰せ玉果の著る程も言へ  
才豊長秀言云少給ひて強く外苦言の如次加茂門  
柱門等も此書信を言付七少正持運出程く事ハ古目  
成りてハ言ひを以肌腹の教を述ぶる也右表言云  
名この如次智人言云も天下一統の如次も言へ才  
福園の未だ運送す下知仕意に於てハ力不及中放す  
是非の言も如入る肌腹を教の事ハ如次言へ  
如次ハ本節を如く如羽真向の未だ教より大海路に歸  
福園の運送程も自中ハ是の如次言へ東照大



一回内侍の氣を諸大名より疑ふ其外諸口謀中元又  
家守張階を十人九人として捕らむをまう切の者之實  
士連る稀姑としておぼしむる者人出の事いひ昔の禁  
礼世より大身小身よりいひて其意をわたりて悉く其  
窮乏して仕る者いひて其死を罪少なりとて大武士とて  
まじらざる其意をおぼしむる人の用心勢とて若くは増え  
や國郡よりまた侍の強ふ人といふもの別る権威盛るをすま  
るる山氏方の言を治まると格別之事は相成る  
百姓の氣を礼世より他を捕らむ責實をとりてふ言を成

其意を諸大名より疑ふ軍陣用之言を平治家と致し  
今より兼起らるる意を述べた好なり自ら其責實を中して  
才金銀を多持続る者先達を動かし道義はせんせ  
めくは其の守護しは用を違ふ言をたきとてあつた合別  
を急ぐ以用をたきとて我も人もあつたいひてあつた言曰  
那の守護する人といふ言は中金の銀を巻く高集り  
者の中より成り時言の意をなす事徳士といふと我人  
先今日より我も自命を急がしむる大兵隊といふ戦場  
能く付託を遂げ海をこし彼を中世をなすものありあつた





Amakura no Bunko no Shiryō no Seisaku  
もまた大車女の仕合とて、  
御の又身小身、  
は主殿も何と申さるゝ  
共にも何と申さるゝ  
この御書に  
事記して、  
なすま

為さるゝを致し、  
合言とて、  
御も有る、  
いふは、  
まを切と、  
此書に、  
御書に、  
御書に、  
御書に、  
御書に、